



私たちの街をもっと知ろう

災害図上訓練「DIG」に挑戦！

「DIG」とはDisaster（災害）、Imagination（想像）、Game（ゲーム）という言葉の頭文字から名付けられた防災訓練の方法です。

この訓練では、あらかじめ設定された災害状況（例えば「震度4の地震が午後3時に発生」など）の中で、まずグループ（家族など）内で、「何をするか？」を話し合います。

その上で、自宅近辺の被害状況や避難場所、救援が必要な家などを地図の上に記入し、「自分はどのように行動すべきか」「住民として何をすべきか、そして地域に必要なものは何か」といったことを確認していきます。

従来の防災訓練とは異なり地域性を探求することにより、災害を理解し防災意識を掘り起こす効果が期待できます。

手稲消防署では区内少年消防クラブの指導者を対象とした研修会が行われ、多くの区民が「DIG」に挑戦しました。



▲まず、災害発生時に何をすべきかを書き出し話し合う



▲そして、地図に避難経路などを記入



▲自らの取るべき行動や地域に必要なものなどを話し合う

お役立てください 手稲区ガイド

避難場所や公共施設の
確認はこれでバッチリ！
区役所総務企画課広聴係
で配布しています。

～街を知り防災を考えるお助けマップ～



星置緑星公園(星置1条5丁目) が一時避難場所に



▲災害発生時には、一時的に様子を見る場所としてご利用いただけます

集合場所（避難場所の確認も含む）の確認、非常用持ち出し品の準備などに日常から取り組んでおく必要があります。

また、災害が発生したときの連絡や避難の手順を体系的に把握しておくために、新しい防災訓練の形態である「災害図上訓練(DIG)」という手法を家庭内で試してみるのもいいでしょう。

さらに、家屋の耐震診断や家具の転倒防止金具などの取り付け、ブロック塀の点検などを平常時に行っておくことも被害の防止につながります。また、火災発生を予防するため、火気の管理の徹底は日常から習慣付けましょう。

協働で防災都市 の実現を

子どもからお年寄りまで、すべての市民が住み慣れた街で安心して暮らすことができる社会。これが理想的な防災都市といえるでしょう。そのための施設の確保は札幌市（行政）が中心となっており、災害が発生した場合、行政のみで対応することはできません。防災への取り組みに不可欠なのは、市民と企業そして行政の三者による協働体制です。一人ひとりが市民として、そして家族の一員として何ができるのかを考え、防災の意識を高めていくことが大切なのです。

天災などの災害を予測することはできません。肝心なのは起きた災害にいかに対応するかです。何も無い日々だからこそ「もしものとき」に備えた準備を心掛けていきましょう。備えは一朝一夕にしてできるものではありませんが、まずあなたの周りから自主防災を進めてみましょう。